

淘汰されない経営戦略を描くための教学IRシンポジウム  
エビデンスに基づいた教育の改善活動  
～教学マネジメントと教学IRの連動デザイン～

山田 剛史 / Tsuyoshi YAMADA  
愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室  
教育調査・分析部門長 准教授  
yamada@ehime-u.ac.jp  
http://yamatuyo.com

1

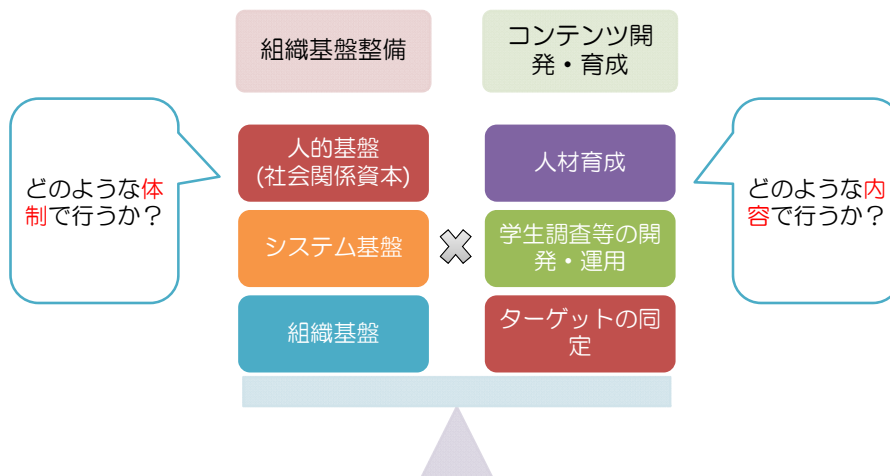
## 報告の流れ

0. 問題意識
1. 愛媛大学の教学マネジメント  
～組織体制，制度設計と教育企画室の位置づけ～
2. 愛媛大学における教育の質保証  
～ミドルアップダウンによるソフトIR～
3. 愛媛大学における教学IR  
～全学一学部，教員一職員，FD・SD～
4. 愛媛大学における教学IRのネクストステージ  
～コンピテンシー・マネジメントを核として～
5. まとめと今後の課題

2

## 0. 問題意識

### ◆内部質保証文脈でIRを実質化するための必要条件

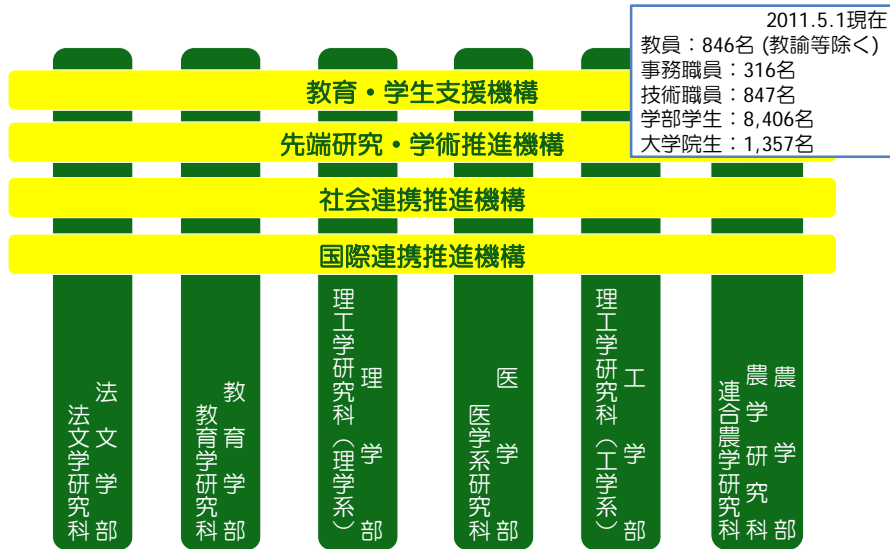


3

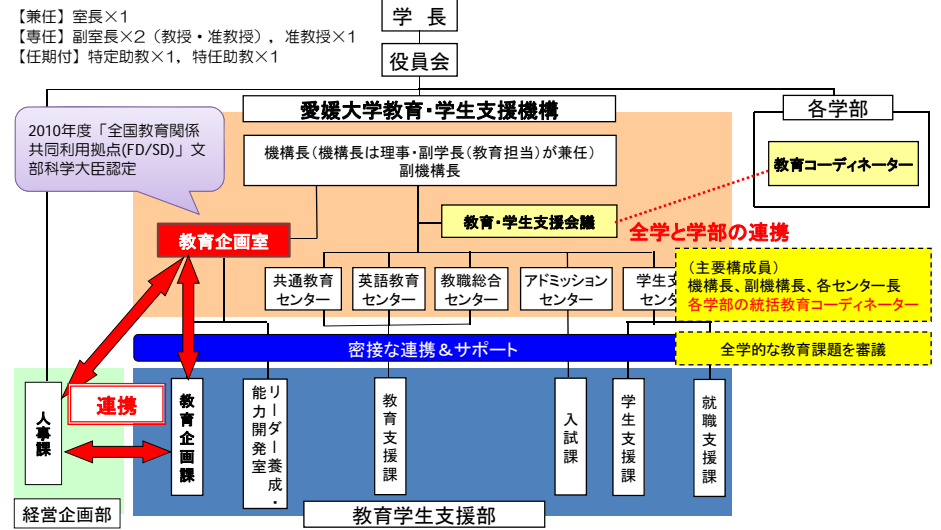
## 1. 愛媛大学の教学マネジメント ～組織体制，制度設計と教育企画室の位置づけ～

4

# 1-1. 愛媛大学の組織概要



# 1-2. 愛媛大学の教育・学修支援体制

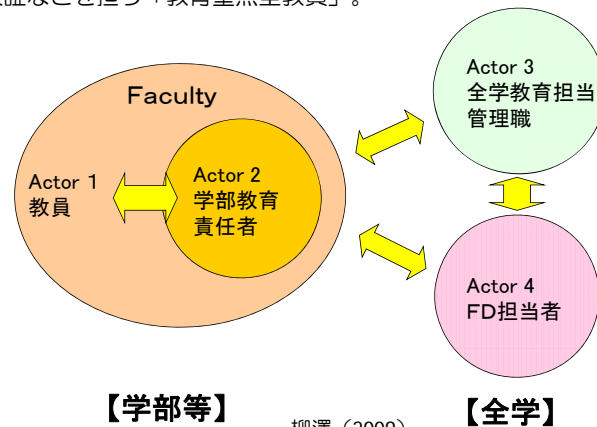


# 1-3. 愛媛大学における教育の質保証・向上を推進するための運動体

「教育コーディネーター制度(2006年度～)」(Actor2)

学部・学科の教育責任者として教育方針の立案, カリキュラムの編成, 教育内容・教授法の改善, 教育効果の検証などを担う「教育重点型教員」。

学科や教育コースごとに最低一人が配置され, 64人(2011.6月現在)がその任に当たっている。当該学部長の推薦に基づき, 役員会の承認を経て, 学長が任命。1期2年, 2期を原則。研修会において, 学部・学科の方針の策定と全学の方針とのすり合わせを行うキーパーソン。

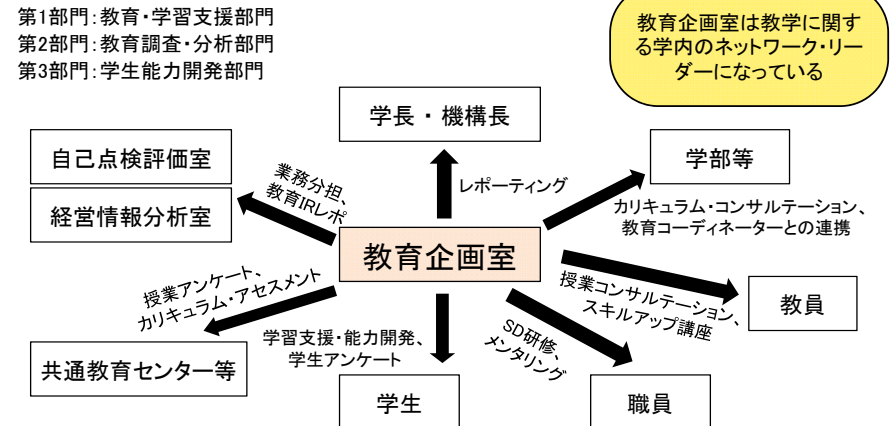


# 1-4. 愛媛大学教育企画室の位置づけ

■ 教育企画室の機能: 全学的な総合的教育支援組織(柳澤, 2012)

◆FD・SD・IRの三位一体で教育改革を推進・支援する

- 第1部門: 教育・学習支援部門
- 第2部門: 教育調査・分析部門
- 第3部門: 学生能力開発部門



## 2-1. 教育の質保証プロセスの可視化

教育企画室（アクター4）をネットワーク・リーダーとした全学の教育の質保証枠組みの策定（アクター3と調整）

全学の教育・学生支援に関する意思決定の場

様々な形で協働・支援

教育・学生支援会議  
教育コーディネーター研修会

一体感のある教育改革

全学の枠組みに基づき、学部教育責任者（アクター2）を中心とした学部教育改革・改善の推進（学部固有の文脈も配慮／アクター1と調整）

ピアレビューに基づく課題の共有・解決の場

## 2. 愛媛大学における教育の質保証 ～ミドルアップダウンによるソフトIR～

9

## 2-2. 愛媛大学における教育の質保証・向上を推進するための場

### 【教育コーディネーター研修会】

学士課程（カリキュラム）改革を目的とした全学的なFDの場。半日研修を年4～5回実施（通算24回、2012.3現在）。教育・学生支援機構主催。



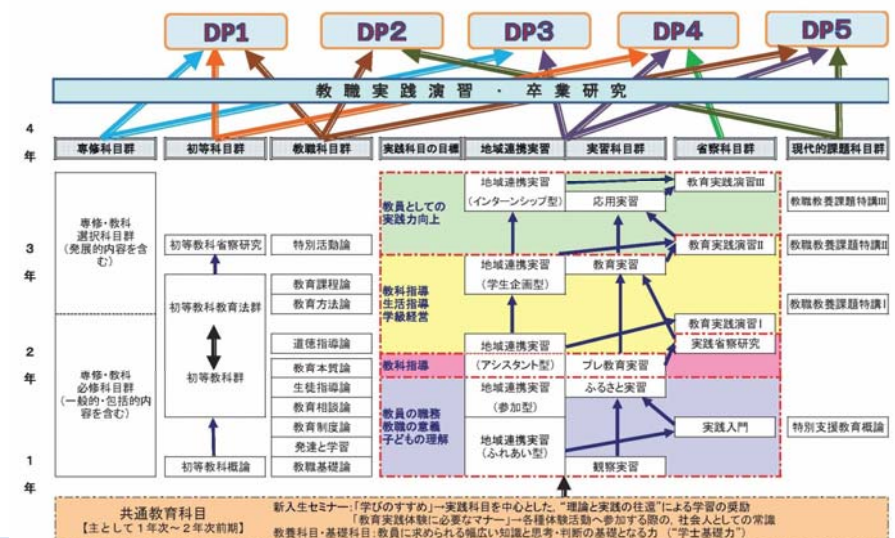
年度	年間テーマ（研修回数）
2006	単位の実質化とカリキュラムの体系化（1）
2007	学士課程の体系化～DP・CP・APの策定と一貫性構築～（5）
2008	学士課程の体系化～カリキュラム・マップとティーチング・ポートフォリオ開発～（4）
2009	学士課程教育の体系化～カリキュラム・アセスメントと単位制度の実質化～（4）
2010	PDCAサイクルと単位制度の実質化（5）
2011	共通教育におけるジェネリックスキル（汎用的能力）育成（5）



11

## 2-3. カリキュラム・マップ（例示）

教育学部学校教育教員養成課程



10

12

## 2-3. カリキュラム・チェックリスト (例示)

図表2 法文学部人文学科のカリキュラム・チェックリスト

人文学科のカリキュラム		人文学科のディプロマ・ポリシー (DP)				
		○=DP 達成のために、特に重要な事項 ○=DP 達成のために、重要な事項 △=DP 達成のために、望ましい事項				
授業科目名	授業の目的(課条書) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を簡潔書に記入)	授業の到達目標(課条書) (この授業科目の学習後に到達すべき真価の(行動)目標を学生が主語で行動動詞を使用して簡潔書に記入)	(知識・理解)	(思考・判断)	(関心・重視)	(態度・表現)
アジア社会史	唐代は中国の中期に位置するが、後半には近世への移行が既に始まっており、中国史の一大変革期に相当する重要な時代である。授業では唐代の歴史に関する基礎的な知識を習得するとともに、歴史を論理的・体系的に把握することにつとめる。また知識だけでなく、歴史的なものの見方・考え方を身につける。	(1) 唐代史に関する基礎的な知識を論理的・体系的に把握する。 (2) 自分なりに唐代史、ひいては中国に関する問題意識を持つ。 (3) 歴史的なものの見方・考え方を身につける。	(1) ○ (2) ○	(3) ○	(2) △	
アジア歴史史	東アジアの起点となる中国古代文明について、その歴史と文化の関係を学び、東洋社会とのかわりについて考える視点を養う。	(1) 中国古代文明の概観を理解し、その歴史と文化の特色を学ぶことを目標とする。 (2) また日本をとりまく国際環境について、自分の考えを表現できるようにする。	(1) ○ (2) ○	(1) ○ (2) ○	(1) ○ (2) ○	(1) ○ (2) ○

13

## 2-3. カリキュラム・アセスメント・チェックリスト (例示)

番号	名称	実施時期	実施頻度	対象	質問項目(対応DP含む)	手法	評価者	実施責任者
1	卒業時アンケート	1~3月	毎年	4年生	・学習成果(DPとの関連を含む) ・学部・課程等カリキュラム満足度 ・就職支援満足度 ・学生支援満足度 ・施設・設備の満足度	質問紙	学生	統括教育コーディネーター 学部自己点検評価委員長
2	教育実習事前・事後アンケート	7月~10月	毎年	3年生	・教育実習前後についての資質能力に関する自己評価 ・教員養成カリキュラムへの要望	質問紙(チェックリストおよび学習省察シート)	学生	実習カリキュラム委員会委員長
3	教員養成カリキュラムシンポジウムによる他者評価	1月21日	毎年		・シンポジウムでの発表内容評価 ・学外者等によるカリキュラム評価	質問紙(チェックリスト)ヒアリング	外部評価委員	実習カリキュラム委員会委員長
4	学生によるカリキュラム評価(学生モニター会議)	2月	毎年	4年生・大学院生(各所属コースから2名ずつ)	・学部・学科カリキュラム満足度(良い点、改善提案)	コンサルタントによるグループヒアリング	学生	教務委員長
5	カリキュラムチェックリスト(CCL)	1月	2年に1回	全授業科目	・DPと到達目標の整合性	シラバスチェック	教育コーディネーター	統括教育コーディネーター
6	授業評価・FD報告書	2月	毎年	学部教員	・シラバス ・授業内容の点検 ・DPやカリキュラム・マップとの整合性	教員自己評価	教員	教務委員長
7	授業カンファレンス	4月~2月	毎年	学部教員	・授業内容や時間外学習に関する改善・工夫 ・DPやカリキュラム・マップとの整合性	教員相互評価	教員	教務委員長

14

## 3. 愛媛大学における教学IR ~全学一学部, 教員一職員, FD・SD~

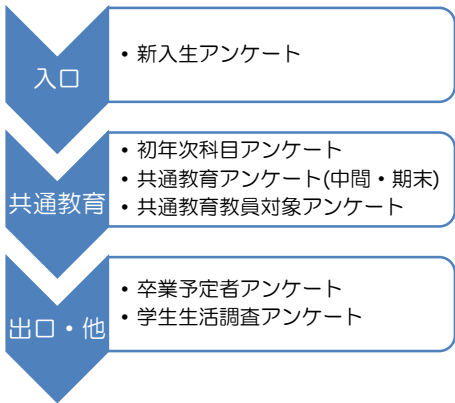
## 3-1. コミュニケーションルートの確立と人材育成



15



### 3-2. ツールとしての学生調査の活用



・教育企画室、共通教育センター、学生支援センターがそれぞれ担当  
 ・項目設定や各調査間の関連性など不十分  
 ・各部局レベルの調査との調整も不十分  
 ・フィードバックが不十分

#### 学生アンケート等結果説明会

■目的  
卒業予定者アンケート調査項目とその分析結果等により、本学の教育成果の現状を知る  
とともに、認証評価等の外部評価に対応できる調査・分析等の検討材料とする。

■実施日  
平成24年1月30日(月) 17時15分～18時

■会場  
本部 第2会議室

■参加対象者  
学部長、学部長、教育コーディネータ、学生アンケート及び教育情報等に関心のある教職員

■内容  
・平成22年度卒業予定者アンケート分析結果報告。  
・割合数 基礎力測定テスト分析結果報告(平成23年5月に実施)

■講師  
・ 栗 敬治(教育企画室副室長/教授)  
・ 山田 剛史(教育企画室准教授)  
・ 平塚 智保(学生支援センター講師)

■主催  
教育企画室、経営情報分析室

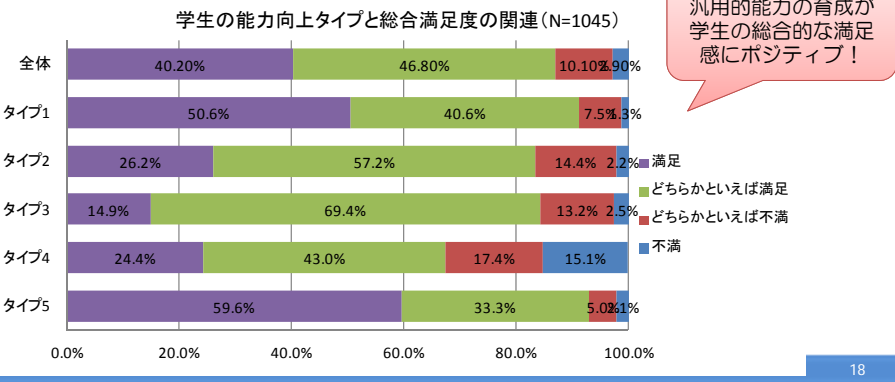
(本件担当)  
教育学生支援部 教育企画室 山内  
電 話：09891927-9154 (内線) 8943

管理職者を対象としたアンケートの結果説明会(1月)  
 (学部長・経営情報分析室・自己点検評価室等)

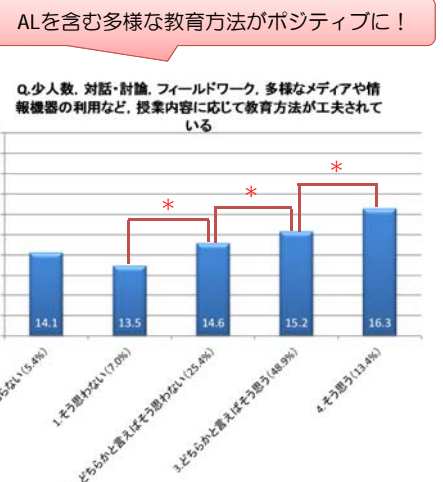
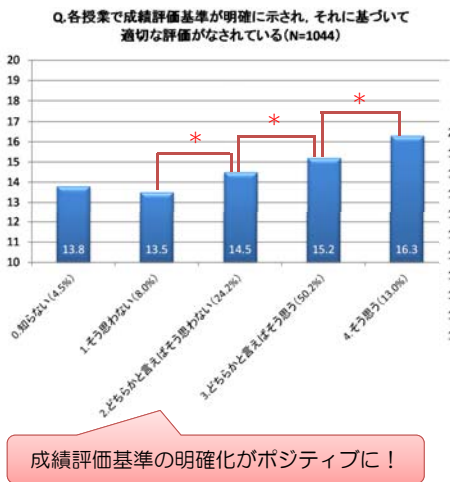
### 3-3. 卒業予定者アンケートの分析例(1/2) ~能力獲得の個人内パターンと総合満足度の関連~

入学時点と比較して向上した能力(5項目/4件法)	
1	自らの個性や適性に基づき学び続ける姿勢(基本姿勢)
2	多様な人と協働するためのコミュニケーション力(基本的なコミュニケーション力)
3	学習活動や社会生活に必要な技能や表現力(基本技能)
4	多角的な視点を培うのに必要な幅広い基礎知識(基礎知識)
5	問題の発見・解決に取り組むための思考力(基本的思考力)

type1: 全ての能力が向上したタイプ  
 type2: 基本的なコミュニケーションのみ若干向上したタイプ  
 type3: 基礎知識のみ若干向上したタイプ  
 type4: 全ての能力が向上していないタイプ  
 type5: 姿勢や汎用的能力のみ向上したタイプ

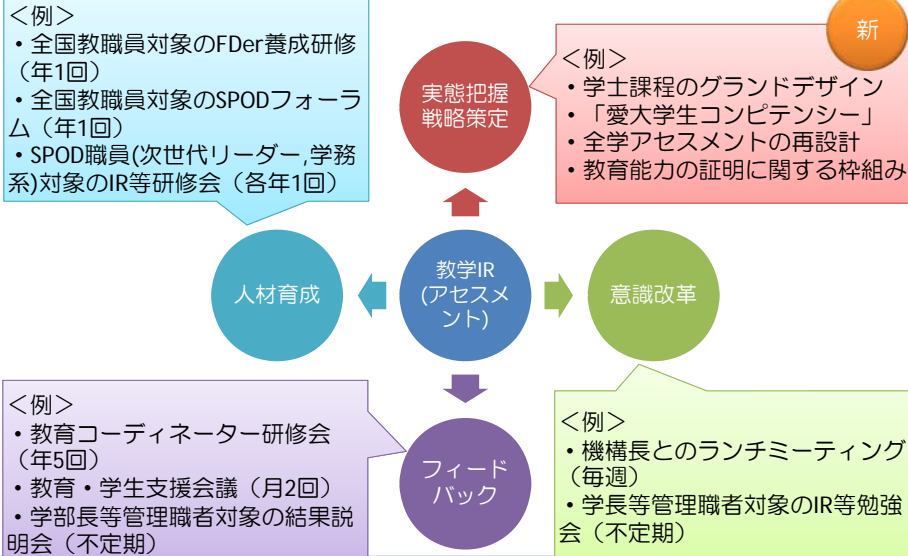


### 3-3. 卒業予定者アンケートの分析例(2/2) ~教育・学生支援の多寡による能力獲得の差異~

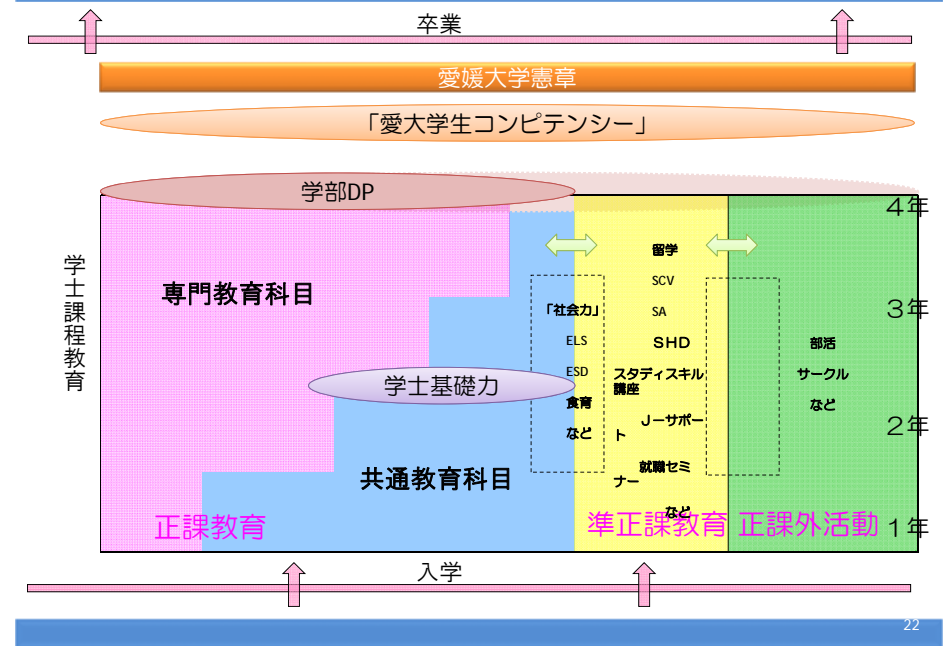


### 4. 愛媛大学における教学IRの ネクストステージ ~コンピテンシー・マネジメントを核として~

## 4. 学生コンピテンシーを核とした教学IRのネクストステージ



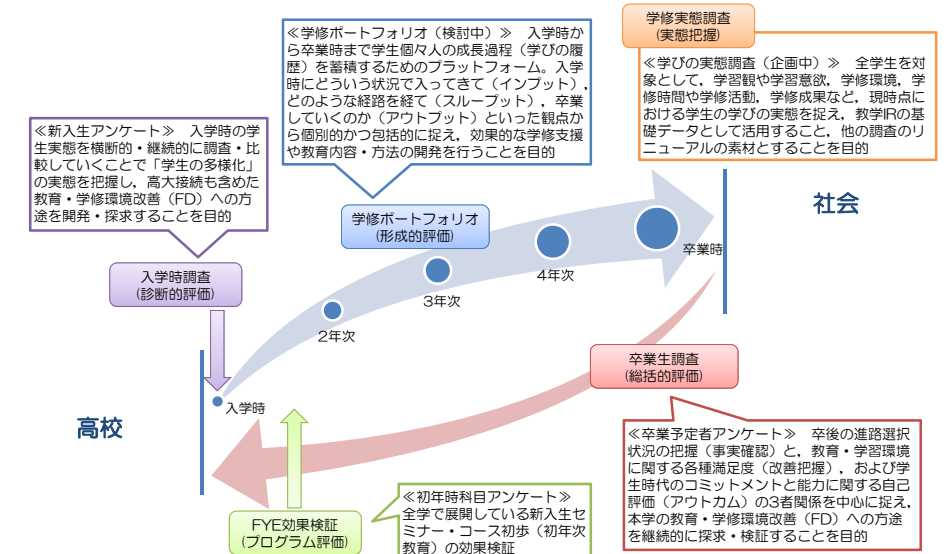
## 愛媛大学における学士課程教育の体系図



## 「愛大学生コンピテンシー」の構成要素

5つの能力	12の具体的な力
I. 知識や技能を適切に運用する能力	1. 必要な情報を収集・整理できる 2. 個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる 3. 習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
II. 論理的に思考し判断する能力	4. 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる（例：クリティカル・シンキング／創造的思考） 5. 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる（例：意思決定・判断力／課題探求・発見・解決力）
III. 多様な人とコミュニケーションする能力	6. 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる（例：ダイアログ／ディスカッション／プレゼンテーション） 7. 目的達成のために多様な人と協働できる（例：協調性／チームワーク／リーダーシップ）
IV. 自立した個人として生きていく能力	8. 自らの個性や適性を活かして行動できる（例：自己理解／自己決断／リフレクション） 9. 社会的関係の中で自分の行動を調整できる（例：順応性／セルフマネジメント／規範遵守）
V. 組織や社会の一員として生きていく能力	10. 他者を理解し、他者のために役立つことができる（例：「お接待」の心／ホスピタリティ） 11. 集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる（例：責任感／連帯感／帰属意識／愛校心） 12. 地域の課題を、地球規模で考え、解決に向けて貢献できる（例：社会貢献／グローバルマインド）

## 学生調査の開発：愛大における全学調査のリデザイン



## 5. まとめと今後の課題

25

## 5. まとめと今後の課題

- 「教学IR」としての取組は端緒にすぎたばかり。
- しかし、それを可能にするための組織体制、制度設計の基盤は構築済み。
- 加えて、学部、企画室、執行部間のコミュニケーション・ストラテジーの可視化と意思決定の迅速化が図られている。
- 各部署における自発的な教育改革・改善（愛大GP等）とその支援および全学的見地の調整・統合が課題。
- 全学の教育方針の明確化（学士課程×コンピテンシー）による教学改善サイクルのリデザインに着手。



ご静聴、ありがとうございました。

27